

1年1学期 第1時 「わたしのジャガイモ」

【本時のねらい】

中学校入学直後、自己開示を通じて、新しい仲間と良い出会いをする。

【ターゲットスキル】

自己信頼 コミュニケーション力

【エクササイズ&準備物】

アイスブレイキング：なし

メインエクササイズ：『わたしのじゃがいも』 男爵いも（人数分）

【授業のポイント】

じゃがいもに自分を投影したものを開示することで、自己開示のハードルを低く設定している。しかし、自分を投影するという作業は、普通に自己開示をするよりは個性があふれ出るので、想像以上におもしろい展開になる。たくさんのじゃがいもの中から自分のじゃがいもを発見できたときの感動が素晴らしい。教員のモデリングが重要である。

【流れ】

	活動の流れ	留意点・教具等
インストラクション	<p>『わたしのじゃがいも』 教員二人のモデリングを通じてインストラクションを行う。 その内容（名前、ニックネーム、チャームポイント、好きな食べ物、好きな色、家族構成、好きな言葉、願い等） 例）「僕は、北海道生まれのジャガ夫さ。夢は、とてもおいしいポテトチップになることさ。・・・」 かぶり物をつけてこのような会話を行う。</p>	<p>教員どうしのモデリングの時に使用するじゃがいものかぶりもの一対 教員と子ども全員分の男爵いも（メイクインだと判別しにくい） 教員がしっかりとじゃがいもになりきる。</p>
エクササイズ	<p>班に配られたじゃがいもを一つ手に取り、じゃがいもをしっかりと見つめながら、自己紹介を考える。</p> <p>班の中で、じゃがいもを見つめ、みんなに見せながら自己紹介をしていく。</p> <p>班の中で、いちばんナイスな紹介を話し合いで選び出す。</p> <p>班で選んだナイスな自己紹介をクラスで発表する。</p> <p>教卓に全員のじゃがいもを集める。</p> <p>じゃがいものまわりに集まり、自分のじゃがいもを探し出す。</p>	<p>じゃがいもをしっかりと見つめることにより、じゃがいもの個性と自分の個性が一つになるようにする。</p> <p>教員が班の発表をしっかりと観察し、あえて声を出しながら、好ましい雰囲気をつくっていく。</p> <p>同時にあつまると教卓のまわりが混乱する場合</p>

	活動の流れ	留意点・教具等
エクササイズ		があるので、班の順で探すなどの工夫をこらす。 まれに、自分のじゃがいもを発見できない場合があるので、班の仲間が協力したり、教員の支援を入れたりする。
ふりかえり・シェアリング	自分のじゃがいもを見つけたら、班にもどり、じゃがいもを真ん中に置いて、気づいたことを交流する。 ふりかえり用紙に記入する。 全体でシェアリングする。 教員からのフィードバックを行う。	フィードバックの視点 ・自分の個性に新たに気づいたこと ・仲間の個性への新しい発見 ・じゃがいもになりきるということ自体が、自分の自己開示になっている ・自分のじゃがいもを発見できたことの喜び 等
<p>〔参考文献〕</p> <p>『人権のための教育』ラルフ・ペットマン著 福田弘訳 明石書店（和歌山県教委）</p> <p>『Let's Cooperate いっしょにできるよ』ミルドレッド・マシューダー著 国際理解教育センター編訳 E R I C （かわさき共生共育プログラム）</p>		

子どもの気づき

- ・みんな楽しそうに書いて、話してくれてすごくよく分かった。
- ・自分のジャガイモが可愛くなった。私のじゃがいもは芽が顔の形やった！
- ・ジャガイモになると自分のこともしゃべりやすかった。
- ・初対面の子もいたけど、普通にしゃべれてよかった。
- ・なんかわからんけど、めっちゃ楽しい気持ちになれた。
- ・いろいろな形があって、人と同じやな～と思った。
- ・友だちになれた気持ちがする。

教員からのコメント

・一年生の新しい班ができて間もない頃の実施でした。班によっては、会話もあまりなく表情も固い班があったのですが、この授業に取り組んでからは、班での昼食も盛り上がり、会話が飛び交うような状態になりました。終わりの短学活での反省会なども、活発に意見交換できるようになりました。「じゃがいもになりきる」というだけの授業なのですが、このエクササイズの力というものを実感することができました。